

切手・葉書にみる バレリーナの肖像 (1) —— マイヤ・プリセツカヤ 生誕 90 周年記念 ——

展示期間 /

2014年12月20日(土)~2015年1月31日(土)

企画・構成 /

関典子 (薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

切手・葉書にみるバレリーナの肖像

薄井憲二バレエ・コレクションの中から、切手と葉書のシリーズを3回にわたってお送りします。

切手という小さな紙片の上で展開するバレエの世界、スターの肖像に身近に触れることを可能にした葉書の魅力。これらは、バレエが生活においても価値を置かれていることの証とも言えるでしょう。

手から手へ渡り、海や空を越えて……いったいどんな人々の手を経て、ここに来たのでしょうか。想像力の翼を広げると、バレエを愛する人々のぬくもりを感じられるような気さえます。

出展リスト

- ◆ マイヤ・プリセツカヤ『瀕死の白鳥』切手 (タンザニア 1990年代)
- ◆ ポリショイ・バレエ劇場 175周年記念切手 (ロシア 1951年)
- ◆ ポストカード 13枚セット 自筆サイン入り (ロシア 1970年)

*『眠れる森の美女』『白鳥の湖』『ライモンダ』『ドン・キホーテ』『ロミオとジュリエット』『瀕死の白鳥』『火の鳥』『ワルプルギスの夜』『石の花』『愛の伝説』『カルメン組曲』

- ◆ 自伝『私、マイヤ・プリセツカヤ(Я, Майя Плисецкая)』自筆サイン入り (ロシア 1994年)

*『闘う白鳥—マイヤ・プリセツカヤ自伝』山下健二訳 文芸春秋 1996の原著

マイヤ・プリセツカヤ (Maya Plisetskaya 1925~)

1925年11月20日、モスクワ生まれ。20世紀最高と称賛されるバレリーナ。振付家・女優としても活躍。1934年、ポリショイ・バレエ学校入学。1943年、卒業と共にポリショイ・バレエ団にリストとして入団。1958年、作曲家ロディオ・シチェドリと結婚。1962年、ガリーナ・ウラノワ引退後、ポリショイ劇場のプリマ・バレリーナに就任。

古典作品だけでなく、『アンナ・カレーニナ』『かもめ』など、ロシア文学を題材とする作品を自ら振付・主演。1960年代からは外国の振付家との共同制作にも積極的に取り組み、アルベルト・アロンソ『カルメン組曲』、モーリス・ベジャール振付『ボレロ』『イサドラ』、ローラン・プティ振付『薔薇の死』などの現代作品においても、比類なき個性と表現力を発揮した。特に、1940年代から踊り続けているミハイル・フォーキン振付『瀕死の白鳥』は、「アンナ・パブロワに継ぐ名演、他の追随を許さない伝説」として語り継がれている。日本にもゆかりが深く、2003年、宝塚歌劇団星組公演『王家に捧ぐ歌』振付担当。2006年、「第18回高松宮殿下記念世界文化賞」受賞。2008年、京都上賀茂神社にて、能・バレエ・日本舞踊のコラボレーション『ボレロ 幻想桜』出演。

プリセツカヤの登場以来、バレリーナには「技術的な煌めき」と「演劇的な存在感」という、より高度な基準が要求されるようになった。均整のとれたスタイル、柔軟な肢体、しなやかな腕の動き、優れた音楽性、俳優としての卓抜した才能、激しい情緒……天性の才能と努力が、彼女を世界の最高峰に立つ踊り手の一人にしたのだ。80歳を過ぎてもなお現役で舞台に立ち続け、人々を魅了し続けた、驚異的なバレリーナである。



兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町 2-22

tel : 0798-68-0223 fax : 0798-68-0212

※ 禁無断転載・複製・引用